

伊丹ルーテル教会 顕現節第5主日礼拝

2021年2月7日

前奏：

招きのことば：詩編 147 編 7-11 節

感謝の献げ物をささげて主に歌え。豎琴に合わせてわたしたちの神にほめ歌をうたえ。

主は天を雲で覆い、大地のために雨を備え 山々に草を芽生えさせられる。

獣や、鳥のたぐいが求めて鳴けば 食べ物をお与えになる。

主は馬の勇ましさを喜ばれるのでもなく 人の足の速さを望まれるのでもない。

主が望まれるのは主を畏れる人 主の慈しみを待ち望む人。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。

あなたはみ言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちにお仕えくださり、私たちをお支えくださいます。日常生活に帰っていくとき、そこでこそあなたは私たちをみ言葉によって導き、あらゆるわざわいから守り、隣人の力になれるように私たちを鍛えお用いくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：1コリント9章16-23節

もっとも、わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせざるはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです。自分からそうしているなら、報酬を得るでしょう。しかし、強いられてするなら、それは、ゆだねられている務めなのです。では、わたしの報酬とは何でしょうか。それは、福音を告げ知らせるときにそれを無報酬で伝え、福音を伝えるわたしが当然持っている権利を用いないということです。

わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法に支配されている人に対しては、わたし自身はそうではないのですが、律法に支配されている人のようになりました。律法に支配されている人を得るためです。また、わたしは神の律法を持っていないわけではなく、キリストの律法に従っているのですが、律法を持たない人に対しては、律法を持たない人のようになりました。律法を持たない人を得るためです。弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。

福音書朗読：マルコによる福音書1章29-39節

すぐに、一行は会堂を出て、シモンとアンデレの家に行った。ヤコブとヨハネも一緒であった。シモンのしゅうとめが熱を出して寝ていたので、人々は早速、彼女のことをイエスに話した。イエスがそばに行き、手を取って起こされると、熱は去り、彼女は一同をもてなした。夕方になって日が沈むと、人々は、病人や悪霊に取りつかれた者を皆、イエスのもとに連れて来た。町中の人々が、戸口に集まった。イエスは、いろいろな病気にかかっている大勢の人たちをいやし、また、多くの悪霊を追い出して、悪霊にものを言うことをお許しにならなかった。悪霊はイエスを知っていたからである。

朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。シモンとその仲間がイエスの後を追い、見つけると、「みんなが捜しています」と言った。イエ

又は言われた。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。」そして、ガリラヤ中の会堂に行き、宣教し、悪霊を追い出された。

讚美歌 502 番

- 1 いともかしこし イエスの恵み、罪に死にたる 身をも活かす。
主よりたまわる あめの糧に 飢えしころも 飽き足らいぬ。
※世にあるかぎり、きみの栄えと、いつくしみとを 語り伝えん。
- 2 救いの恵み 告ぐるわれは 楽しみあふれ 歌とぞなる。
滅びをいでし この喜び、 あまねく人に えさせまほし ※
- 3 くすしき恵み あまねく満ち、あるに甲斐なき われをも召し、
あまつ世継ぎと なしたまえば、たれか洩るべき 主の救いに ※ **アーメン**

説教：「そこでもわたしは宣教する」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今朝与えられています聖書の箇所では、先週に続いてイエス様が何をなさったかが記されています。イエス様は公けのお働きを始め、漁師のペテロたちを弟子として呼ばれ、そのペテロたちの住んでいるカファルナウムというまちの会堂で教えました。そこで汚れた霊に取りつかれていた人とのやりとりがあって、イエス様は汚れた霊を権威をもって叱りつけ、その人から追い出したので人々は驚き、イエス様の評判はガリラヤの隅々まで広まった、と記されていました。イエス様はそのあとすぐにペテロたちの家に行きました。兄弟のアンデレも、また、やはり漁師として働いているところでイエス様のお弟子として従っていったヤコブとヨハネも一緒にいました。

今朝は、会堂から帰ったイエス様がどのようにお過ごしになったかを読んでいきましょう。今日私たちは教会で礼拝にあずかったあと、それぞれの生活の場に帰っていきます。それはここから生活の場へと遣わされていく、ということです。礼拝の場で私たちにお語り下さり、私たちのためにお働きくださるイエス様は、私たちとともに生活の場にも来てくださいます。そこでもイエス様は人々にお仕えになりました。祈られました。神の国が近づいたという福音を伝えるために弟子たちを連れて街々を訪ねました。神様は今朝、私たちの生活の場でイエス様がどのようにお働きになるか、をお語りくださいます。

イエス様は会堂から帰ってからもお忙しく人々にお仕えくださいました。マルコによる福音書の10章45節に「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命をささげるために来た」と言われました。イエス様は十字架にかかって、私たちすべてのためにご自分のいのちをおささげくださいました。そのおかげで、私たちは神様から

正しく罪を赦され、そして神様の子どもとして命溢れて歩むことができます。イエス様が来てくださったのは神の国が近づいたということです。イエス様は私たちに仕えて下さるために来てくださいました。

ペテロたちはついさきほど会堂でイエス様が権威をもって教え、また汚れた霊を追い出されたのを驚きをもって見たところでした。イエス様に対して、神様の権威をもつお方だという信頼が芽生えていました。そういえば家には自分の大切な奥さんのお母さんが熱にうなされて寝ています。それでイエス様に彼女の話を話しました。

イエス様は今日もあなたとともに教会からおうちに伴ってくださいます。そこにはいろいろな問題があり、考えるだけで疲れてしまう日常が待っています。イエス様のお言葉を教会でいただいたら、現実の生活で重荷となっていること、愛する家族の課題、傷ついていることなど、イエス様にお話ししましょう。

イエス様はすぐにお母さんの傍らに行ってくださいました。さきほど会堂では汚れた霊を叱って追い出しました。騒がしくからんでくる汚れた霊に対して、威厳をもって言葉ひとつで助けられました。しかし、お母さんのそばに行ってくださいましたイエス様は、まことに優しく、手をとって起こしてくださいました。御手を置いてくださったのです。そして、起きることができるよう、新しい命があふれるように、体を支えて起こしてくださいました。お母さんはここで復活の喜びを体験しています。

イエス様はこのように、信頼する私たちの願いにこたえて、すぐに働いてくださいます。仕えてくださいます。家庭とともに暮らす方々に御手を置いてくださいます。それは治療する手です。温かい御手を置いて癒してくださいます。忍耐と信仰をもってイエス様に期待しましょう。

お母さんは熱がさがって癒されました。そして一同をもてなした、と書かれています。「もてなした」ということばはとても日本的に響きます。ここでは「仕える」という意味のことばが用いられています。イエス様が御手を置いて癒してください、仕えてくださったので、イエス様に癒していただいたお母さんは、今度はイエス様と人々に感謝のあまり喜んで仕えるようになったということです。新しい命がお母さんに宿っています。イエス様に仕えていただいた喜びを、イエス様と人々にお返ししている姿があります。ペテロはよくその妻を連れて旅していたと新約聖書のほかのところに載っていますが、お母さんもお母さんなりにイエス様に仕えて生涯を歩んだことでしょう。イエス様が来てくださって、そのイエス様に信頼する祈りがあるところで、イエス様の働きが始まります。家庭は生き生きと変えられて互いに仕えあい、喜びあうところとなります。あなたとともに今日、イエス様はあなたの家庭にともに入ってくださいます。

夕方になりました。ユダヤでは日没から一日が始まることになっています。朝、安息日の会堂でイエス様が教え、汚れた霊を追い出されたという評判が広がっていました。町中の人々は悪霊に取りつかれた人や病気の人をイエス様のところに連れてきました。町にはたくさんの人々が苦しんでいるのです。癒しがあるとわかると、人々はイエス様のところに押し寄せてきました。イエス様はお仕えくださいました。身元に押し寄せた大勢の人々のために、ひとりひとりにふさわしくお接しください、悪霊を追い出し、病をいやしてくださいました。

イエス様を宿す家庭は、イエス様を慕って来られる方々を受け入れるところとなりました。ペテロの家はたくさんの方がイエス様に会うために用いられるイエス様との出会いの場となりました。私たちの家庭もそのようなところとなります。

さて、翌朝です。前日は朝は会堂、午後はペテロのお母さんの癒し、夜は町中の人々のために遅くまでお働きくださったイエス様ですが、夜明け前には起きて、おひとりで人里離れたところへ出向き、父なる神様にお祈りをなさっていました。

神の国は近づいた、という福音を伝えはじめられたイエス様は、人々の間で忙しい働きをなさいました。しかし、それらの働きの土台になっていたのは、ひとりで祈る生活でした。祈りは神様との交わりです。独り言ではありません。イエス様は私たちに、イエス様のお名前によって父なる神様に祈るようにと、主の祈りを教えていただいています。父なる神様は御子イエス様を遣わしてくださいました。それは、イエス様が十字架でご自分のいのちをささげてくださいることで、神様の前で私たちの罪が正しく赦されて、私たちが確信をもって神様とともに歩むようになるためです。イエス様はそのような神様の御心を喜び、いつも神様に祈っておられました。イエス様は今も私たちのためにとりなしてくださいています。私たちがイエス様を信じて、罪の赦しを受け取り、新しい生きがいある命にみなぎって歩むようにと祈ってくださいています。

私たちもまた、生活の場で祈ることができます。イエス様のようにひとりになる時間をつくって、人々と出会わない場所で祈りましょう。日曜日の礼拝で聴いたみ言葉を思い起こし、感謝をもって新しい一日を始める祈りのときを持ちましょう。意味を考えながら、主の祈りをお祈りなさるのもよいと思います。そうすれば、神様があなたの罪をイエス様によって赦してくださることをあらためて覚え、あなたはイエス様の復活にあずかる新しいいのちを得て、悪い誘惑に流されないで神さまと人々にお仕えする生きがいをいただきます。

ペテロさんや仲間は朝起きたらイエス様のお姿が見当たらないので心配になりました。イエス様を探しました。ようやく見つけて「みんなが捜しています」と言いました。するとイエス様

は彼らを次の歩みへとお招きくださいました。「さあ、近くのほかの町や村へ行こう、わたしはそこで宣教をする、そのために出てきたのだから。」と力強く弟子たちを導きました。そうです、このようなイエス様に従うために、漁師だった彼らは、イエス様に従ってきたのです。カファルナウムだけにとどまらず、その日からガリラヤ地方のすみずみまでイエス様に従って会堂を訪ね歩きました。イエス様はそこで宣教をし、悪霊を追い出されました。イエス様に従って歩み、イエス様のお話しやみわざを体験しました。

イエス様はすべての人々のために福音をもたらすために来てくださいました。自分の内に閉じこもりがちな私たちを、イエス様はいつも世界に出会わせてくださいます。これまでのイエス様のみわざをふりかえるだけに終わりがちな私たちに、今日の使命に向き合うことを教え、またこれからひろがる希望に向けて心を解き放ってくださいます。今日も、この一週間も、イエス様は私たちに「近くのほかの町や村へ行こう」と言われ、私たちがまだ知らない世界、新しい出会いや体験に導いてくださいます。いろいろな心配なことがあるでしょう。しかし、安心してください。イエス様はあなたのその心配事に福音をもたらしてくださいます。私たちは自分の知恵や力により頼むのではなく、イエス様に導かれて、この一週間は歩みます。

お祈りいたしましょう。

「恵み深い天の父なる神様、あなたはイエス様をお遣わしくくださいました。イエス様を信じる信仰によって、またイエス様とひとつになる洗礼を通して、あなたは私たちの罪を赦し、新しい命をお与えくださいました。今日は日曜日だけではなく、日常の日にも、イエス様は私たちの家庭に、近隣に、親族の交わりに、また働きの場に来てくださり、優しく、また力強く私たちに仕えて下さり、また私たちの目と心を開いて世界へ、将来へと導いてくださいます。心から感謝をいたします。私たちは今日もあなたへの感謝をもって新しい一週をはじめます。どうぞあなたの弟子として導いてください。私たちは互いのために祈ります。私たちのこの一週をお導きください。主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 525 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 めぐみぶかき 主のほか、たれかわれを 慰めん。
※わが主、わが神、恵みたまえ、ただ頼りゆく わが身を。
- 2 わが主ともに いまさば、悪魔 われを いかにせん。 ※
- 3 きよきみむね 教えて、果たしたまえ みちかい。 ※
- 4 とうとき主よ、我をば きみのものと したまえ。 ※ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ御栄えよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏